人生

文藝より

島村抱月

九月二〇日

此の頃の癖で、毎朝三時さうから眼がさめて眠られない。

電燈をともして、枕元に置いて行く清時代の蚊帳抄に藝術とは書物を開いて早稲田の圖書館から持って来て、暫く抱つて置いてくれるものである。

著者はメーリット、ガルシエといふ婦人で、昨年の暮である。第一卷とあるから、まだ出るのであらう。

井ガ。紀元前四千年頃のエヂプトの藝術から、ロマ藝術の少し後のところまでを歴史的に叙したものであるが、要するに教科書程度から餘りまだは脱出しつゝある。事實の備忘録として便利なところの書物である。

とかく〜に挿んである諦断、平穏面倒事、と言ってよい。昔も光づ

ギリシアの繪畫は線と形とを主とした。

色彩の味は極めて切稚であるが、ギリシア瓶の繪を見ても分かる。色彩の

つゝ その理は

吉川人王

と言ってよい。昔（むかし）も老づ
ギリシアの演劇は線と形とを主とした。

（つ）その理は

色彩の味は極めて切種である。
ギリシア瓶の繪を見ても分かる。色彩の
フーゴジョン、ブレンデ井ニグを解し始めて以後
「なんぢ所、近世に於て勝れ」と以前とで古代
と近世との区別がつく、というような議論で
づなりであるのだ。少し読むと興が薄くなって、始めの方の序文などを
めくって見ると、論旨のカット代りにラスキ
ンの論を抄したのが目についた。
「大なる国民は偉業を
三種の原稿を書く。偉業の書、彼等の言功
語の書、彼等が藝術の書、この
の三書は、何れの一つを読むにしても、他の二つ
を読まなければ領解することは出来ない。
けれ共三者の中で全然信用するに足る唯一
のものは第三の書である。一国民の
事業は好運で成功することもある。一国民の
言語は其の種族中此数の天才
者によって偉大なる発達を得ることもある。たゞ
其の藝術のみは、其の民族の一般的大発展と

共通的の思想とによって成立するのである

平井

者によって偉大なる感得する点もあるだろう。其の藝術のみは、其の民族の一般的本能と

共通的感とによって成立する」というのである。別によって白い言い表はし方である。メーリー、がルゴー嬢の一巻の書物よりも此の一節の方が所謂秘密深い。藝術上の最大真理も最大疑問もラスキンの此の一語で包有する。

苦

点ども出来る。

斯んな事を考へながら書物を投げ出して、眼を閉じてゐると、魔法師が眼蓋を通して電燈の影の見えるのが邪魔になって堪えられ小なりのまくを閉じて消したことをしてゐる。

暫く

と、家の隅々から、色んな物音微かな物音が聞こえて来る。

今朝早く出かけて行くと、雪の上の人の足跡が雪の上に出ます。夢基の曙の時間が家の暗い古い事を思ひ出ます。

いい事だ、ありがたい事だ、と眼前に浮ぶ。男主人公、までのあの暗い間の間ぶ何分あつて

にしう。あ小を測って置かなければ主人公

が花壇を替へる時間が宜敷。実際の

夢基は前面あの椅子と椅子との距離をも

つと狭い筈だから、あの動作は出来にくか

徳

ようと、時間の今日は本当のすぢかに振でも張

つと使い慣ゞから、あの動作が出来にくか

10 20 大野屋

ようと、昨日今日は本庫の寸法ばかりに振でも使つてやとなれば駄目だ。前から来る先輩といふまも今日は一つ研究室に研究させて貰ひたいと思ひ、あの事も忘れてゐると思ひ出すと際限の無い気ばかり急いて来る。先かくすぐ内に夜が明けた。例によつて起きて見ると有難い雨が降つてゐる。八時頃から研究所へ出かけた。警戒は大体に於いて固まつてゐるつゞかから、本全体の味といふもうりかけ

部分々々の機械的な長などを一歩々々実演に進めて行く事とが此の頃の重な課業である。今朝寝過ごして遅刻した。寸法を間違へて道具係の人から決めて貰つて、基礎工事で工割をして見るさもから始めた。無駄係も技師員も殺がりである。

今日は午後から相に現役の練習がある、花屋も来るといふ。一日がかりと腰を据えて書食をしてあつて、○○○雅楽のY君が原稿の

やうです

10 20 大野屋

車でやつて来る。玄関で立話をして帰る人

栄

昨日帰宅すると、一日かゝりと聞いた推薦状を書き食をしまつて、○○雑誌のY君から原稿のやくそく

10 20 大野屋

車でやつて来る。玄関で立話をした。○○新聞のT君から約束通り来ないと、今度は来る。応接室で二十分許り強話をして帰つた。

書斎に戻り寄せ雑書がはいのライスカレーなども冷えく固まつてゐる。それを無意味にあはたゞしく掻き込みながら、一つは限りなく先の仕事をと考へてゐると、降りる事務室ではひつきり無しに電話のベルが鳴る。事務員が駆け回る。坪内宅の長が見えて始まる。

事と相談接待の事で打ち合せをする。龍君から地田君と面会の事で話しをする。

あはたゞしかつた半日の事を思ふと、緑しめ高は藝術プラス事務の味である。静プラス動の味である。其の中に私の執着もある。

10 20 大野屋

108

4 宗教と新しきもの

此のさい新にオックスフォードから歸つた二人に於ける情作三郎君らある。君の歸朝は我が宗教界に取つて多大の意味を有してゐるさうである。君と二三十分間の對話にも、明である。君の或席での事を見ると、

2 [illegible]

[illegible]

英國の教の根元地とも見るべきオックスフォードの隅々の一隅に、ローマンカソリックの教會が一つ厳然として立つてゐる。此の事実からして既に我邦に禁へてゐる。此の事実からして既に我邦に於ける興味を惹くのみならず、[illegible]は、寺院そして寺院とは寺[illegible]の舊教の方法に[illegible]白い光りを感じてゐる。從つて教會に行く日には、屢々此の方[illegible]足を向けた。[illegible]

の思想たるやうな蜘蛛の糸の如き、煙、もるく揺く雪の花、あの遠くまで消つて行くと、宗教の形式には東洋も西洋もなくなる。ただいと元様である。

此の事から、教信の事で続つて、ゆて特君との談話は、なが、君はが新に流し帰つた。宗教上の心持は、此のあい、

時を着けて、而も他の一時はカントリックに

を最新最自由の所に着けやうとするプロテ

カトリックの信仰にあるといふ。現実を其

つあつて天地を貫なる真理なり

に異なるあらたなる心あらたなる

る。之が自由な新しい宗教のことである。

併しながら之を理窟にはしないむしろ見

解した神秘、象徴の姿で表はしたいとさは

舊教の事は殆ど著く教的形式を取つて

ゐる所の面白味がある。母なるに比べ

天地の観照である、形は舊教的象徴で

あれ、と云ふ所にプロテストカントリックの本意がある

のであらう。松ヶ君の話から解した

近代

して快の宗教

教法と感じたのは此の意味

内

の後に孔子

えろ

4

10 20 錢 高知堂製

10 20 錢 高知堂製

10 20 錢 高知堂製

えろ

5

10 20 錢 高知堂製

10 20 錢高知堂製

10 20 錢高知堂製

出発点として、オブゼクトに手をあすれば、其の時
自から現実そのものが権威ら滅つて行く。未来を
捕へる現実に一歩でも足を踏み出すと、只一つのオブゼクト
明に当てはまるものとなる。未来を望み
あたかもそれは、截然として別である。
前者の意味で未来を現実的に見て観照し得る
人は真の理想家であり、時代の乃至
がわたしたちは、日々後の世は果てしなく続く
一か所やらな意味での理想を孤思思考を産し
得るであろうか。若し後者の意味ならば、
すべて現実三世は因果の一の観照にも達の
つてみるのだ。其の一立の体系によつて、其の
かは特に強き立場いつてみるとしるけである。
各々もまた過現未三世を兼ね現実主義の
思想家である。今の宗教家は此の
ような事をするのであるのか。九
月廿日 月光(四)

10 20 錢高知堂製

明白な一つ、其の情操の情調の曙から一歩

10 20 錢高知堂製

文藝部宛

文藝部雪より

思ひ出

シェークスピアのジュリアスシーザーの舞台面に出すに就て

今度の文藝部雪の場を

はどうの話がある。あれは普通には面白くないあれ

丈のものとして見るべき筈のものであらう。キリスト教徒

獄太人との如何時の敵對感情、一体の質問、

まとりの大風政治的の事件、それをシェークスピア

の解釋と樣式とで見事に裝飾したのである。

これ程面白いのであらうけれども共あれ位のものでは

になると、振返って置いて、あちら眺めたから眺め

ナンセンスである。ただ、勇樣の立場の種々の場面を

附ける味はいはゆる見えるもあるが、我々に生命を

附加して見せるものである。我々に

与生命を附加してやるものは藝術である。

藝術人はどこまでの面人に現代の思想を見

ると、其の眞の意を考へる。あなたはシェイクスピアを

單に單一的な高利貸さん詐欺漢、

世に近い面太人と見て

其の外形の富安とりよ駝に現代の興味を呼

直す

西洋の

侍使

なるにも

美人の

裁判官

10/20 雲高知堂製

2

二つの主張
でもない

上

詳しい

具の外形の高安とにより
ばうとするものはある。併し同じく現代の興味
を呼ぶなら、外形の高安よりも内面
の意義に重点を置くべきであろう。
当世の風潮は、ロマンチック風に違ひないのだ
が、我主義の一部分
樹化である。浮かれた国の意志、
緩慢の一念力、法文
我が水を律し、
左傳する。利己は赤裸々の真理であり正義である。

最愛

ある。彼らの理論はんとうである事の前には、
恭悲、仏教、道徳、孫蘭の赤面は少
しも必要が無い。斯うした
一面の自然性格を主張
しようとするのは、ただ
ではなかろう。善人でも偉人でもない、
巨人である。一個の巨大漢である。
現代を生み得る
彼らは時に、彼らの立つる社会に背景
は、彼らと対抗を作つてゐる様々の装飾

1

西洋の例使
などにも

興味に現代の興味を呼
ぶ。併し同じく現代の興味
の高安よりも内面
の意義に重点を置くべきであろう。
当世の風潮は、ロマンチック風に違ひないのだ
が、我主義の一部分
樹化である。浮かれた国の意志、
緩慢の一念力、法文
我が水を律し、
左傳する。利己は赤裸々の真理であり正義である。

最愛

ある。彼らの理論はんとうである事の前には、
恭悲、仏教、道徳、孫蘭の赤面は少
しも必要が無い。斯うした
一面の自然性格を主張
しようとするのは、ただ
ではなかろう。善人でも偉人でもない、
巨人である。一個の巨大漢である。
現代を生み得る
彼らは時に、彼らの立つる社会に背景
は、彼らと対抗を作つてゐる様々の装飾

1

巨人と見て、

懸けてある。法廷の場──法廷の場面は、正た
此の對照の模樣である。最も色彩に富む
富んだ十六世紀のイタリヤの貴族の衣裳
と建築と背景に圍まれて、女性の假裝し
た博士が、朱の長衣を華しい女であるく
身にかけて、珠玉のやうな雄辯
で慈悲を説き、宗教を説き、人情を説く。
法廷の中央に其の中央に巨大なる猶太人
醜い巨大
たる存在をを得ない

一

わが一人。其の前景に、雷火に傷けられた
年の大木が何かのやうに、直立
して居る。彼れは見るからにシヤイロックが
りて、筋肉の緊張して、ミケランゼロの彫刻
のやうな男である逞しさを持って
ある。醜い人間である。巨大なるが為に醜い人
間である。然り、彼は巨大なるが為に醜いと
いふ不思議な運命を擔って居る一
人である。併しながら又然なる。
此の巨大な醜漢シヤイロックが、ミケランゼロの藝

人であり、併しながらこれ迄なるべく
此の巨大な漢文をイヤイヤながら、
一ヶ月ばかりの間、一ヶ月ばかりの
ホ。

宗教、風俗のあらゆる美術な

踏みにぢらんと足あなな
花びらや露の珠や
油蟬がかくつて
忘れ行く
一幕を見る事
劇の主人公の
ものこそ
悲、情、のもにかくつて、踏みにぢらんと足あなな
から紅に薄い剛うルこてるの花びらや露の珠や
で飾つて女郎蜘蛛の網の網た、油蟬がかくつて
やうな光景である。巨大なるまゝ忘れ行く
悲劇、所しなる心持で此の一幕を見る事
さとは出来ないであらうか。此の劇の主人公は
此の話を作り出すに大体次のもうヤ
イロハクを飾りに極太この富実にするさもは好
まぬと、東小物と常ら流ら流ら事がある。
併しエエ一クスピアを離れるさも作因より主人公の計
さぬ所であらう。研究の餘地はあにある。

十月廿三日

イロハクを踊りに
まぬと、（東小女）常に語らんと事がある。
併しエレークを離れることは出来ない主意者の評
さぬ所であらう。研究の餘地は多いにある。
（十月廿三日）